

評価領域毎の学校関係者評価・意見

<p>基準1 教育理念・目的・育成 人材像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改正にあたり、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーを見直しており、今後は教育活動がさらに充実していくものと思われる。 ・設置母体である社会医療法人天神会が法人職員に求める人材像を参考として、育成する人材像を明確にするとともに、育成するためのより良い手立てを探求していくことが望まれる。 ・コミュニケーション能力、臨床判断を新たに教育目標に取り入れるなど、これから求められる看護師像を意識して目標を設定している。今後は、目標が達成できるよう授業内容等に工夫が求められる。 ・教員と実習指導者の連携が十分に取れており、実習を受け易い環境となっている。
<p>基準2 学校運営</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム委員会、実習担当者委員会、入試実行委員会等で審議した事項について、教務会議を通して全教職員による共通理解と意思統一を図り、実行している。 ・校務分掌を効率的なものとし、各業務におけるPDCAサイクルを年間スケジュールに落としとした上で実践するなど、より効率的かつ効果的な学校運営が望まれる。 ・新型コロナの感染が広がる中、WIFI環境を整え、学生に対する遠隔授業をスムーズに行えた。また、令和4年度から1年生に電子教科書を導入することとしている。今後とも、ICTの活用を更に進めていただきたい。
<p>基準3 教育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の主体的な学習を促進するため、各期の到達目標をクラスや個人で設定して取り組ませている。また、教科の到達目標も学生便覧に明示するとともに、授業ごとにガイダンスを行い、学ぶ意欲を培っている。 ・学年担任制をとり、各担任が情報交換を密にしながら統一的指導を行っている。また、一人の専任教員が6～7名の学生を担当して個々に対応した学習支援体制を取っている。 ・外部講師による授業研修、相互公開授業、年1回の講師会の充実などにより、指導方針の共通理解、指導方法の統一など、授業のスタンダード化を進めることも検討されたい。 ・新型コロナの感染が続き、実習の実施や地域との交流が制限される中で、よりよい学習ができるよう努められた。 <p>新型コロナ感染の状況を見ながら、引き続き学生にとってより良い学習機会の提供を工夫していただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムでは、地域・在宅領域が広がっているので学院近

	<p>隣の施設や臨地実習では、臨地の現場と密に連携が取れる体制を構築し定期的に評価する体制整備を期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に天神会関連施設で働いている医者や看護師など沢山の職員が授業に携わっており、そのため各施設の現状を聞くことができ、役に立った。
<p>基準 4 学修成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年3月に卒業した62名と過年度の卒業生3名、全員が看護師国家試験を合格し、合格率100%を達成した。これは、3か年にわたる段階的かつ系統的な指導の成果と言える。特に、学生個々への継続した手厚い支援が実を結んだように思う。 ・業界の状況から、就職率100%は当然のことと思われる。目指すべきは就職した卒業生の早期の退職率を押さえることであり、さらなるキャリア教育の充実を期待する。 ・設置法人が運営する病院に就職した卒業生の追跡調査を行うことで、学院の教育活動が適切だったのかを評価することも一案である。 ・国家試験合格率100%を初めて達成した。これは、当事者である個々の学生の努力があつてのことではあるが、教員の熱意と継続した粘り強い指導に加え、学生が皆で国家試験に合格するという雰囲気があったことが大きかったと聞いている。 <p>今回の経験を活かして、国家試験合格率100%を更に続けられるようにしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で臨地実習が十分にできない場面も多いため、学生の時からコミュニケーションや実践能力を高めるために天神会施設を活用して就職に繋げていければと考えますので学院からの現状を現場に発信して頂ければと思う。 ・コロナ禍で思うように病院見学に行けず、実習で雰囲気を知っている設置法人に就職した人が多い。学校の卒業生も沢山いて、働き易い環境にある。 ・授業や実習の中でも、国家試験対策が様々な場面でなされており、意識化することができている。
<p>基準 5 学生支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退学者を出さないように様々な支援を行ったこともあり、開校以来、最も低い退学率に留めたことは評価できる。今後もオープンキャンパスや説明会等の充実により、入学希望者へ学院の魅力について周知を図り、看護師になることへの情熱を持った学生を受け入れたい。また、入学後における手厚い学生支援についても今まで同様に望むところである。 ・カウンセラーの定期的な配置と活用にあわせて、担任による積極的な指導と支援により、学生の精神的なケアに努めている。 ・留学生を積極的に受け入れていることは、社会的な貢献につながり大いに評価できる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会を立ち上げており、今後、卒業生の支援体制を構築していくことが望まれる。そのことで、同窓会からも学院への協力を得られるのではないか。 ・退学率が減少傾向にあることは評価できる。今後とも、できるだけ退学者を出さないように努めてもらいたい。 <p>昨年度に同窓会を発足させた。卒業生が学院とのつながりを維持できるように会の運営にも支援を続けていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生相談の利用者が伸びない理由があると思うので、アンケートをとるなど学生目線、いつでも相談しやすい環境があることを学生に周知するなどの検討をして頂ければと思う。 ・学習支援など相談できる環境が整っているうえに、教員と学生との距離も近く、精神的支援が多くなされている。国家試験に不合格した場合の支援は心強いと思われる。
<p>基準 6 教育環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・看護を学ぶにふさわしい充実した施設設備を有している。最新の専門的な施設設備はもちろんのこと、グループワーク室、主体的学習を可能とする図書室、語らいの場となる複数のラウンジなど、いずれもゆとりがあり、清潔感あふれる教育環境である。 ・東に日田・朝倉・浮羽、西に佐賀東部、北は福岡都市圏、南は大牟田までが通学圏となり、医療の街、久留米の閑静な場所にある看護学校として、さらなるアピールに努めてほしい。 ・当学院の教育の魅力である国際交流がコロナ禍のために中止を余儀なくされているが、リモートでの交流も検討されたい。 ・看護を学ぶために十分な教育環境を整えている。 <p>今後とも、ICTの活用を更に進めていただきたい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子教科書導入での定期的な評価を行いながら、効果的な運用を期待する。 ・実習室の物品など実際に病棟で使っているもので演習するため、実習に行った時に役立った。 ・図書館では自学自習ができる環境にある。蔵書の参考書も充実しており、直ぐに調べたり、勉強できてよかった。
<p>基準 7 学生の募集と受け入れ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でオープンキャンパスが中止となったり、高校訪問が制限されたりしたが、社会人入試の回数を増やすことなどにより、定員を充足することができた。 ・今後は、高校訪問を拡大することにより当学院の魅力を十分に伝えていくことが望まれる。 ・「学校案内動画」を作成し、HPにアップするだけでなく、SNSを活用して入学希望者やその保護者へ積極的に情報提供することを検討されたい。 ・看護師への適性を有する者を入学させるため、選考方法を改善する

	<p>余地はある。また、入学予定者の意欲を喚起するため、事前指導について再考してもよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナの感染が続いている影響で、オープンキャンパスや学院説明会の開催が制限され、学生の募集活動が十分に行えない状況にある。そのため、学校訪問して進路指導の先生に直接説明する機会をもっと効果的に活用するよう検討していただきたい。 ・学院案内DVD作成は効果があると思う。
基準 8 財務	<ul style="list-style-type: none"> ・専門学校の主な収入は、学生の入学料、授業料等である。そのためにも、教育内容の充実と広報活動に努めて、定員を確保することが肝要である。 ・設置法人の経営は優れており安心できる場所であるが、学校の収入のみで学校の全ての支出をまかなうことが必要と考える。 ・必要のない経費を節約し、それを必要となる事項に充てることで教育活動がさらに充実する。限られた予算をいかに効率的かつ効果的に活用するか、教職員全員がコスト意識を持ってほしい。 ・母体法人の経営状態もよく、学校運営に関しては安心できるが、学院の経営安定のためにも、今後とも定員の確保に努めていただきたい。
基準 9 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・関係法令等を遵守し、学校運営を行っているが、専修学校に準用される学校教育関係の法令等には再度、留意すべきである。 ・常勤職員全員が自己点検・評価に関わりながら年度のPDCAに活用し、そのことで教育の充実改善がさらに進むことを期待する。 ・適切な運営がなされていると思われるが、今後とも関係法令の順守をお願いしたい。
基準 10 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の状況の中、本来の形では実施できていないようであるが、できうる限りで活動に取り組んでいる。 ・新型コロナの感染が続く中で、活動が制約されるが、できる範囲での活動を期待したい。 ・道の駅での血圧測定では、学院紹介と地域の方とふれあうことで学生の学びの場が増え貢献している実感に繋がると思うので、積極的に参加して頂きたい。 ・今年度は、コロナ禍で地域の人との関わりがあまり出来なかった。

－学校関係者 総括－

関係評価者の皆様から沢山のご意見、ご指摘を頂き、誠にありがとうございました。本学院の更なる発展のため、頂きましたご意見等を、学院運営に活かしていく所存です。

平成28年に開校した本学院は、今年7回生を迎えました。入学試験では例年に比べ志願者が減少したため、入試回数を増やし、なんとか定員を確保できた状況です。更なる広報活動の充実を図るため、今年は学校案内パンフレットを刷新し、学院の現在の状況を知ってもらうため、インスタグラムを開始するなど、様々な取り組みを行っています。入学後は本学院の特徴である学

生－教員間のきめ細やかな関わりを強化して、学業不振やメンタル面のフォローに力を注ぎ、退学率や進級不可となる学生の減少を目指したいと思っております。

令和3年度は第5次カリキュラム改正への準備の年となり、開校からのカリキュラム評価を行いました。改正のねらいである「臨床判断能力」「多職種連携」「コミュニケーション能力」「ICT活用能力」を軸に、地域に根ざした学院の役割を意識した科目の設定などの実施により、カリキュラムの再構築を行いました。今年度は新カリキュラムを実施し、検証へと移行します。

また、令和3年度は新型コロナウイルス感染症と闘って2年目の年でもありました。感染症対策を講じることで、数件のコロナ感染陽性者はあったものの、クラスターになることはなく、終局することができました。

これからもご支援の程、よろしく願いいたします。

ご協力、ありがとうございました。